

授業による教員志望の変化について

教育心理学専修・相模健人

1. 授業の概観

教育学部における教職科目 A に属する教育相談論を対象に教員志望の変化とその理由についてアンケートで授業研究を行った。授業は「学生が現代の学校におけるいじめ、不登校などの問題の対応を教育相談の観点から学ぶ。特に子どもの問題に対して、いかに学校・家庭・地域といった学校システムが連携して対応できるか、その具体的手法について学ぶ」ことを目的としている。授業前半では教育相談について概説を行い、ミニシンポジウムなどの討論を通じて教育相談にかかわる問題について考え、それ以降は事例を中心とし、カウンセリングに関する知識を学びながら、子どもにとって有効な関わりについて討論を交えて考えていった。2回、13回目講義に実地指導講師として現職の教員に来て、講義をしていただいている。今回は必ずしも教員免許取得が卒業要件とならない総合人間形成課程、スポーツ健康科学課程、芸術文化課程の学生を対象の教育相談論で調査を行った。

2. 授業評価法

- ①調査対象 教育相談論後期授業における受講者 65名
②調査時期 2013年2月
③調査方法 授業最終回において「最終授業評価シート」を受講者に配布して、授業内で記入、回収した。今回対象としたのは「あなたは教師になりたいですか？それは授業当初より変わりましたか？」という質問である。回答は「授業当初から変わらずはい」、「授業当初から変わってはい」、「授業当初から変わっていいえ」、「授業当初から変わらずいいえ」の4件法で記入してもらった。そしてその理由について自由記述にて回答してもらった。

3. 授業評価結果

以下全体の結果と回答を照らし合わせながら考察を行っていきたい。

全体の結果は以下の Table のようになり、「授業当初から変わらずはい」と教員の志望を変わらず持っているのは 25名 (36.76%) であり、「授業当初から変わらずいいえ」の 30名 (44.12%) を下回っている。変化がない回答をした学生はあまり授業の影響を受けていないと考えられる。それに対し、「授業当初から変わっていいえ」が 2名 (2.94%) いるとはいえ、「授業当初から変わってはい」と答えた学生が 8名 (11.76%) いることは大きな意味を持つと考えられる。以下自由記述を含めて考察していきたい。

「授業当初から変わらずはい」と答えている学生の多くは「やりがいを感じたから」、「人に何かを教えることが好きだから」、「学校が好きだから」、「子どもが好きだから」、「子どもと関わっていききたい」といった理由を書きしており、教員志望の意欲を強く持っていると考えられる。また、「昔からの夢だから、そう簡単には変わらない」と一つの授業では変化がないことを述べている者もいる。

しかし、「実地指導講師の先生が来てくださっているいろいろなお話を聞くことができたから。学校だからこそ味わえる感動を教えてもらえた」、「外部講師の先生の話がすごくよくて、教師ってやっぱりいいなと思った」、「現場にいた先生から話を聞いてとても充実できる職種であると感じました。当初よりも教師になりたいという気持ちが強くなりました」、「現職の先生の話がとても印象的であったから。実際に応用できることが多かったから」といった実地指導講師で授業内にて2回講義に来ていただいた現職の先生の話に感銘を受けていることが伺える。こういった実地指導講師から学校現場の話や教員の魅力を直接聞くことで、教員志望をより強めていることが考えられる。

Table 教員志望に関する変化の結果

	授業当初から変わらずはい	授業当初から変わってはい	授業当初から変わっていいえ	授業当初から変わらずいいえ
出現数	25	8	2	30
%	36.76%	11.76%	2.94%	44.12%

また、「現場の話を聞いて、より自分のためになったと思うから」、「この授業を受けてから、教師が何をしたらよいのかという具体的なことがわかって、教師になりたい気持ちが深まった」といった教育現場での教育相談の対応を授業内で多く扱っていることで、教員志望を高めている者もいる。

このような教育現場での対応を学ぶ中で「授業を受ける前から問題行動のある子どもなどに対し、大変ではあるが、やりがいを感じるのだと思っていたから」、「教師は大変だと思うけど、クラスで問題が起きても解決に向かうことができるし、成長を少しずつでもみることができるから」、「教師はとても苦勞が多いと思うが、やはりやりがいが他の職にはないものだから」といった教員の仕事が大変であることを自覚しながらも、対応方法を学んで教師となり、子どもに関わっていきたいという気持ちにつながっていると考えられる。

「現職の方のお話も、カウンセリングの実例も私には『子どもの幸せを考えるため』の一步です。肥やしにしたのにムダにはしません。だから教師になりたいです」といった学習したことを教育実践に活かしていきたいという意見も見られている。

次に「授業当初から変わらずいいえ」と答えている学生はまず「私は教員ではなく専門職になりたいと思っているから」、「教師よりスポーツインストラクターになりたいから」といった教員よりほかの職種を考えていることが挙げられる。その職業において教員免許が役立つと考え、受講しているようである。

しかしその中でも「教師の魅力を感じることができた。が、他になりたい職業があるため」、「以前より興味はわいたけれど、やはり就職をしたいという気持ちが大きいから」、「考えが変わるようなことは無かった。ただ、実地指導講師の先生のお話を聞いて教師のイメージが少し良くなった」といった講義の中で若干教師の魅力を感じ、教師の仕事についてイメージが変わっていることは伺える。

しかし、その中でも教員志望とならないのは、「実地指導講師の先生のお話を聞いて、先生という職も悪くないと思っただけ、カウンセラーにも詳しく知れて、興味がわいたが、やはり私には生徒たちを受け止めれる愛情はないなと思っただけから」、「教師になるほど自分には力がないと思うから」、「自分には教師としての負担が大きすぎて耐えられないと思っただけから」といった自らの自信がないことが大きな理由と考えられる。また、「多くの事例を見て、学校現場にはこんなに問題があるということに改めて認識したからです」、「やっぱり大変そうというイメージが強くなってしまった」、「講師の

先生のお話を聞いて『教師になりたい』という気持ちもあったのですが、子どもが問題行動を起こした際にどのように対応したら良いか難しいから」、「自分はあまりもめごとややっかいな事に関わりたくないため、授業を受けてさらにそう思ったから」といった講義の中でかえって教員は大変そうだというイメージを持ってしまった者もいる。「生徒を育てる重要な仕事だということがより理解できたので、生半可な気持ちでなる職業ではないと思うから」といった意見もある。

しかしそんな中でも「まだ決定ではないが…しかし、この授業から様々な問題に対する子どものアプローチのやり方は参考になった」、「『いいえ』と言い切ることはできない。感動的な話をきくとやっぱり『はい』かな?とも思う」教員志望ではないことを述べながらまだ迷っている学生も見られる。

「授業当初から変わっていいえ」と答えている学生も「他にも自分がしたい!と思える職があると感じているから」、「実際の事例を聞いて、大変な仕事だと思った」といった同様の意見が見られた。

「授業当初から変わってはい」と答えている学生は「この授業、特に実地指導講師の先生のお話を通して、奥の深いすばらしい職業であると改めて感じたから」、「この授業だけが理由ではないが、教師という仕事がおもしろそうだと感じ始めたから。特に現場の先生の話が印象に残っている」、「少し興味が出てきた。生徒との関わりを大切にしたいと思った」、「教師の職業に就くには勉強することがまだまだたくさんあると感じた。しかし、それ以上にやりがいを感じた」といった実地指導講師の先生のお話を含めて教員の仕事に興味が出てきていることを述べている。

また、「この授業をふくめ、私が生徒にできそうなことが見えてきたから」といった少し自分ができそうなことがあると感じている学生もいる。「様々な問題が起こるので大変だと思いましたが、教師として何かしてあげたいなと思いましたが」といった教員の仕事の大変さは認識しつつも、教員志望に変化していることが伺える。

4. まとめ

以上のように学生の教員志望を高めるには、実地指導講師や筆者の教育現場からの実例、やりがいといった話が有効であると考えられる。また教員の大変さは示しながらも、具体的対応を扱うことで学生に自らが教員になったときにどんなことができるか考えていってもらうことが有効であると考えられる。